

「秋の東北鉄道旅行 (13)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

かつて奥羽本線の秋田～青森の区間には、新潟・上野、そして大阪からの直通特急や寝台列車が多数走っていた。今は東北新幹線や秋田新幹線の開通で そのような長距離優等列車は完全に姿を消した。



しかし今でも孤軍奮闘しているのが「特急つがる号」だ。秋田～青森だけの運転だが、東北地方に残った在来線特急列車としては貴重な存在と言える。私は弘前駅から秋田駅まで乗ったが、東京では見られない珍しい特急車両に乗れて楽しかった。「つがる号」は、かつての上野～青森間の急行列車「津軽号」の愛称を引き継いでいる。



秋田駅の在来線ホームには、奥羽本線特急「つがる」と羽越本線特急「いなほ」が見られる。東北地方で2種類の在来線特急が同時に見られるのは、秋田駅だけだ。一瞬、昔の上野駅にいるような気分だった。



在来線ホームの端っこには、2両編成の気動車(ディーゼル列車)が停まっている。これは「男鹿線(おがせん)」の列車だ。青が「青いなまはげ」、赤が「赤いなまはげ」を表現している。



秋田駅は特急や新幹線の始発駅でもある、大ターミナル駅だが、跨線橋は「いなかの駅」のように閑散としていた。



秋田駅のコンコースには、「なまはげ」のモニュメントが「鎮座」している。周りでは多くの観光客が写真を撮っていた・・・と言いたいところだが、誰もいなかった。お昼時で、人通りが少なかったようだ。